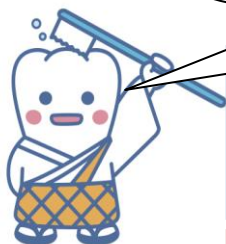


骨粗しょう症の薬にご用心！！

体の治療と、歯の治療は別物と思っていないか？ところが全身疾患の為に飲んでいる薬が歯科治療に影響を与えることが、しばしばあります。ごく最近「ビスフォスフォネート系薬剤」が注目され始めました。これは骨粗しょう症の治療薬として大変ポピュラーで、また、ガンの骨転移の治療にも使われる優れた薬です。しかし、これを継続的に使用している方が歯科の外科的治療がきっかけで重大な副作用（顎の骨の壊死など）が起こる可能性が最近明らかになってきました。特に注意すべきなのはガン治療に使用される注射薬で、使用開始から約3カ月～12カ月で副作用のリスクが高まります。



Q ビスフォスフォネート系薬剤を使用しているも全員に起こるわけではないそうです。どんなきっかけで起きるのですか？

A 発症のきっかけは、抜歯などの外科処置が多いです。虫歯・歯周炎の放置や、お口の不衛生、口内炎、骨隆起、入れ歯の圧迫等があると起こりやすくなります。



Q なぜ顎の骨にばかり骨壊死が起こるのでしょうか？

A 顎の骨本来の活発な骨代謝の回転を薬で止めるために起こる副作用だからです。

歯科治療を受けていただく際、持病のお薬によっては、重大な副作用を患者さんがこうむってしまうことがあります。安心・安全な治療を受けていただくためにも必ず院長・スタッフに正しくお伝えください。